

目的

- 県では、「やまがた公共交通オープンデータプラットフォーム」を構築し、バスや鉄道、タクシー等の輸送サービスの情報や、病院・福祉、学校、商業等の施設等の移動需要の情報等を一元的に管理
- コミュニティバス等の需要に応じた見直しを進めるため、このオープンデータプラットフォームを活用し、移動需要や利用者数の見える化による分析を行い、地域全体を網羅した効果的な路線・ダイヤ等を設定

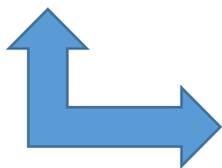
具体の取組み

モデル事業等により、オープンデータによる路線見直し手法等を整理し、県全域で効果的な交通ネットワークを構築

■オープンデータ等を活用した効果的な路線やダイヤの見直し

- 大学や交通コンサル等とともに、市町村やバス・JRなどの事業者と連携し、オープンデータ等の分析・活用による路線やダイヤ見直しのための手法を整理
  - ①どのようなデータを活用するか（データによって、どのような課題がみえるか）
  - ②どのようにデータを分析するか
  - ③分析結果をもとに、どのように路線、ダイヤを見直すか 等

⇒モデル事業の実施・検証を通し、県全域で効果的な路線見直し等が可能な手法を整理



○モデル事業の実施

- ・特定地域においてモデル事業を実施することで、オープンデータを活用した分析、路線見直しの取組みの有効性、実現性、実効性を確認

<モデル事業の内容>

- ・オープンデータによる移動需要の把握・分析、路線見直し案等の作成 等

<対象地域・理由>

- ・最上地域
- ・令和5年度以降の新庄病院移転、専門職大学の開設等による移動需要の変化